

□都市緑地公園及び多目的広場

中津川市建設部都市計画課

1. はじめに

中津川市は、長野県と隣接する岐阜県の東部に位置し、中央アルプス南端の主峰恵那山の懷にいだかれる山紫水明のまちとしてられ、古くから地域交流の重要な位置

にあり、交通、文化の結節点として発展してきました。

また、現在においても主要な国道、自動車道といった幹線道路や鉄道があり、将来的には濃飛横断道路、リニア中央エクスプレス構想が計画され、岐阜県の東の玄関口、

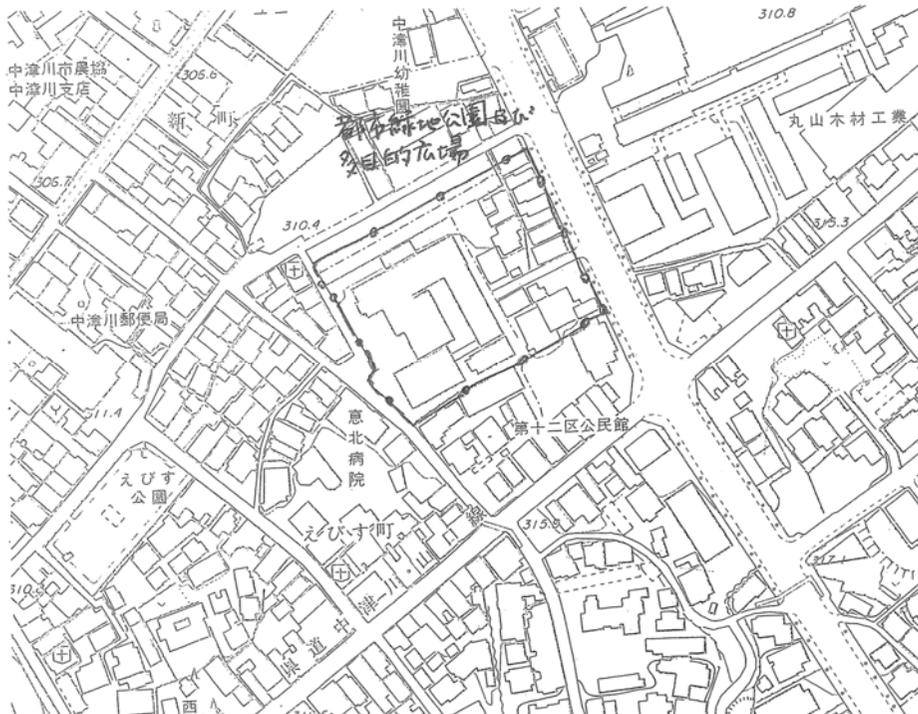




写真1 都市緑地公園

日本の交通の要衝として更に躍進していくことが予想されます。

2. まちづくり

こうした都市化の歩みの中で、生活の根幹をなすまちづくりにつきまちは、「環境に配慮したまちづくり」「高齢化社会に配慮したまちづくり」「防災に配慮したまちづくり」など、調和、ゆとり、安全を重視し、物心両面に配慮した生活空間の形成につとめています。

特に、忘れ得ない平成7年1月17日の兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)を機会に地域防災計画の見直しや各種防災対策の強化に力を注いできました。

3. 整備に関するコンセプト

このような状況の中、中津川市中心市街地に位置する中津川市民病院の移転に伴う跡地利用がクローズアップされ、多くの利

用計画案が検討されました。

最終的に防災面と安全面を最優先した公園整備計画が採用され、防災避難地、イベント広場などの多機能空間を取り入れ、周辺には防災機能を持たせた上、子供や老人、そして身体障害者にやさしい公園というコンセプトで整備を進めました。

4. 整備内容

〔井戸水の再利用〕

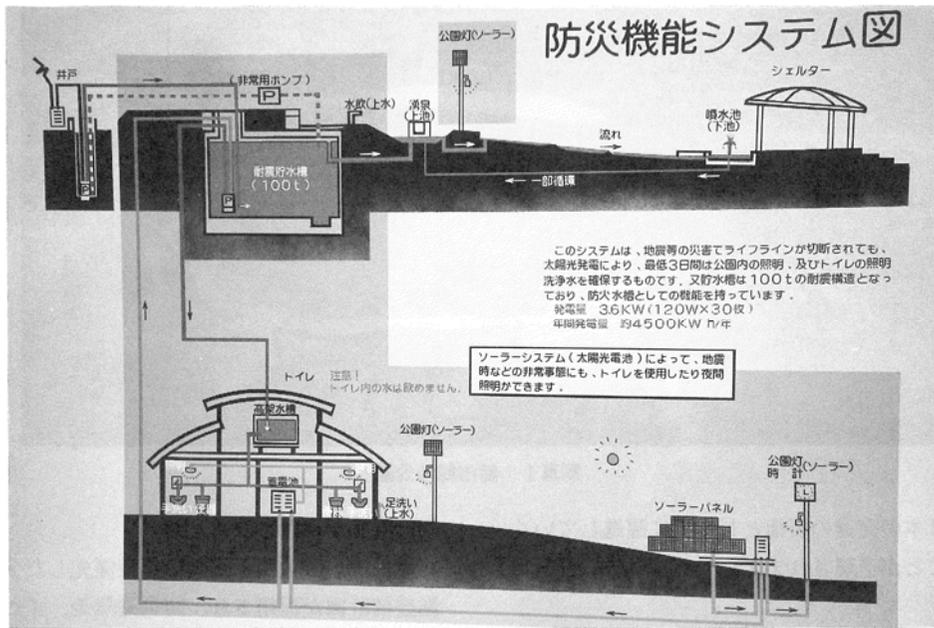
古くからここで湧き出る井戸水を再利用し太陽光発電によりポンプを稼働させ、新しく設置した耐震性貯水槽に導入することにより、防火や災害時の飲料水にも利用します。

〔太陽光発電〕

太陽光発電により、ライフラインが地震などにより切断されても、最低3日間は公園内の照明やトイレの洗浄水が確保されます。

〔子供、老人、障害者に優しい〕

街の中には安心して子供らを遊ばせる空間は少なく、まして老人や障害者にとって



皆無に等しいのですが、ここではそれらの方々が安心してバリアフリーの芝生広場やせせらぎが体感できます。

〔ステージ機能を持ったテント〕

耐震性のある安全性の高いテント形式のステージを設置し、ふだんの雨宿りの場所や仮設テントイベントステージとして利用できます。

〔多機能な広場〕

広場は砂場や運動場などの機能を持たせ、避難地はもとより幼稚園や保育園並びに町内会の運動会やイベント広場、さらに臨時駐車場にも利用でき、広場の砂は、災害時の土のうなどの緊急資材にも使用可能となっています。

5. おわりに

以上、ふだんは多くの市民が憩い、楽しむ場所として、そして災害時には避難の拠点として多機能に利用できるよう整備しました。

今後、太陽光発電の増設や自家発電システムの導入や整備により、災害時の情報受発信や水浄化も可能にすることにより、本当の意味で防災の拠点となります。